

# 出羽三山巡り(山形県)

これが羽黒山の出羽神社(三神合祭殿)への大鳥居



出羽神社(三神合祭殿)

月山神社

湯殿山神社



五重塔→

↑ 随神門

↑ 大鳥居

さて、ここは出羽三山神社への参道入口



これが出羽神社随神門



# 由緒

## 御祭神

月山神社 月山頂上鎮座二九八四米

月読命 天照大神の弟神 大漁満足 厄除肉運 延寿息災

出羽神社 羽黒山頂鎮座四二四米

伊弉波神 稲倉魂命 食物を司とる神 五穀豊穰 災難消除 家内安全 子孫繁栄

湯殿山神社 湯殿山頂一五〇四米

大山祇命 各地の山を管理する神 国土安全 夫婦和合 縁結 平安成就

大己貴命 国土経営開拓の神 交通安全 営業成就 航海安全

少彦名命 医薬医業酒造の神 国土開拓 病氣平癒

三神合祭 殿羽黒山の出羽神社に月山湯殿山の大神を合祭して

三神合祭殿という年間の諸祭典は総てこゝで行う。

## 沿革

月山、羽黒山、湯殿山を総称して出羽三山という。推古元年（五九三）第三十二代崇峻天皇の皇子蜂子皇子開山である。この山は元来自然崇拜山岳信仰の古神道から発したもので明治維新までは神仏習合の山として崇え信仰区域も当時東三十三ヶ國総鎮護として広く朝野の尊崇を集めた。今日にあつては行の山、浄めの山、肉運出世の山として信仰が篤く年間を通じての参拝者は一八〇万人に及んでいる。

## 主要祭事

例 祭（花まつり）七月十五日 神輿の渡御あり（羽黒山頂）

春 祭（祈年祭）五月八日 御田植神事あり

秋 祭（新嘗祭）十月二十三日 穫祭

松樹祭（歳夜祭）十月三十一日 天下泰平五穀豊穰を祈つて

雪中の神事あり

## 特殊神事と蜂子神社例祭

八朔祭 八月三十日夜羽黒山伏による柴燈祭（火祭）執行

田面祭 九月一日八朔祭に引き続き五穀豊穰を祈つての

## 神事

峰中 自八月下旬 羽黒山内吹越堂て行う山伏の

## 秋の峰修行

月次祭 毎月一日、十五日 齋行

# 隨身門

元禄年間（約二八〇余年前）秋田矢島の藩主矢島公の寄進である。

もと仁王門と称したが明治の神佛分離の結果仁王尊を他に移して隨身像を安置する事となつた。（櫛石窓神）と申して門戸を守護し給う神である。

御門から内にあらゆる穢れや邪惡の入るのを防がれ給う御神徳を備えられてゐる神であるのでこの御門を通り御山御参拝の方々は身の清浄を御祈願され、て二四四六の石段を一步一步力強く踏みしめて山頂の太殿に額づかれるよう御願ひ致します。

隨身像は二二〇余年前の宝暦二年六月大佛師大熊宮内の作であるが昭和四十八年篤信者によつて立派に御修理することの出来たことは感謝に堪えないところである。

天拝石/この奇石を通し天を祭ったもので、その昔修験者の行法を行った場所の石という



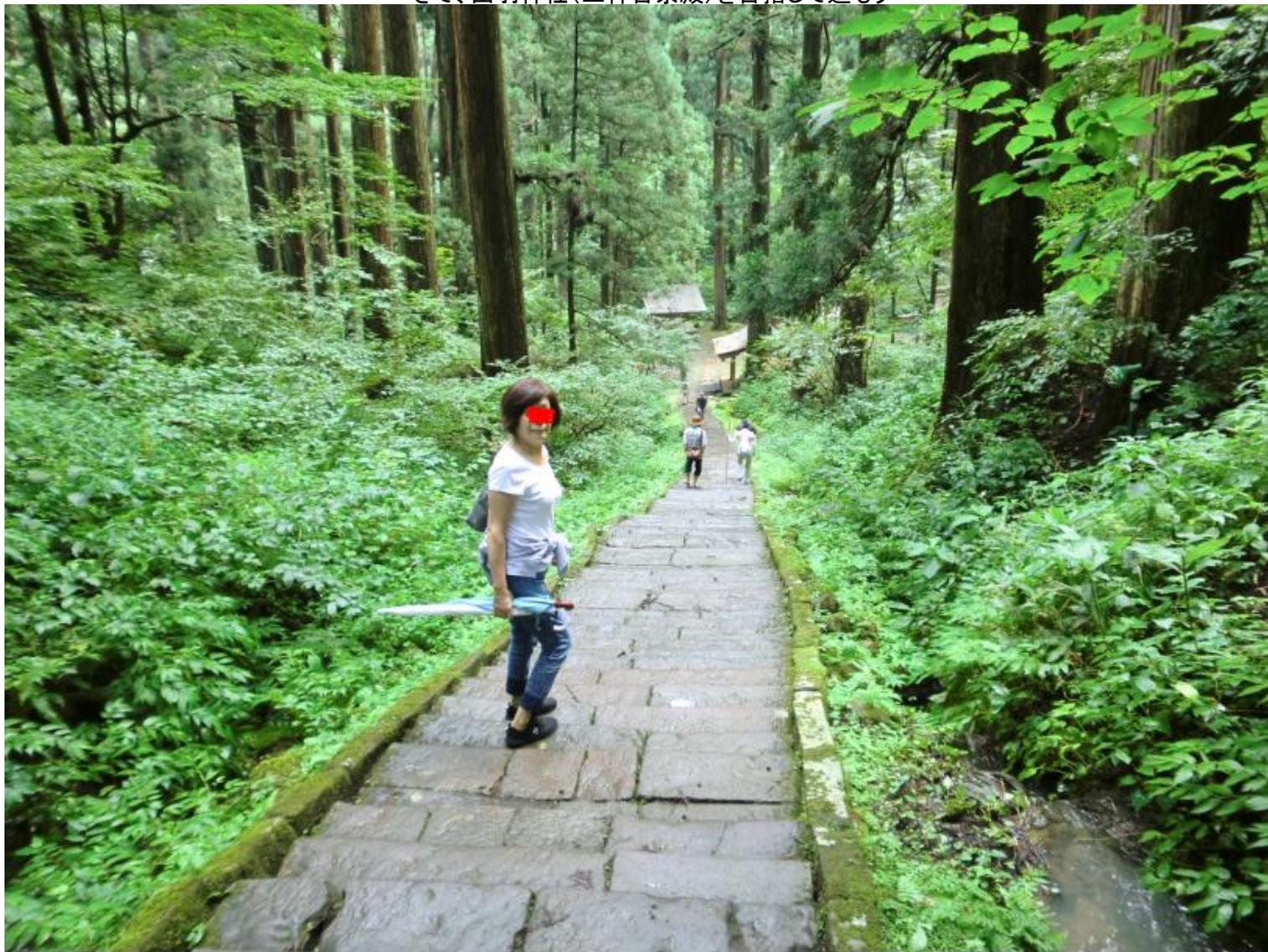
神聖視されているようで、木柵で囲われ、石には注連縄が締められている



境内側から見た随神門



さて、出羽神社(三神合祭殿)を目指して進もう



途中にある境内社/左に大歳神社、右手前に天神社、右奥に豊玉姫神社



これは祓川に架かる神橋



前方は「須賀の滝」/江戸時代初期、羽黒山の中興の祖が8km先の月山から水路を開削し造った人工の滝という



「須賀の滝」の前の祓川神社(右手)と岩戸分神社(左手)



これは不動明王



そこから神橋を見たところ



更に進む/一の坂



正面の太い木は天然記念物「羽黒山の爺スギ」



天然記念物「羽黒山の爺スギ」

場所 羽黒山三十三番地内

根元周囲 十一メートル五十センチ

目通り周囲 八メートル三十センチ

樹高 四十八メートル三十センチ

樹令 一、〇〇〇年以上と云われ

山内随一の巨木である。

※爺スギの根を保護するため、

石積より中への立入を

御遠慮ください。

出羽三山神社

正面に五重塔が見えてくる



これが国宝羽黒山五重塔



東北地方最古の塔という/法隆寺五重塔、瑠璃光寺五重塔と共に日本三大五重塔に数えられているという



平安時代の平将門の建立というが



現在の塔は南北朝時代の再建/彩色や装飾などの無い素木造で屋根は柿葺



軒反りの強い深い軒、細い塔身、心柱は初重の天井上から立つなどといった中世の様式になっているという



組物は和様の三手先、中備は間斗束/中央に扉口、両脇間は盲連子の窓/下部の腰長押にも束を立てる



初重には高欄のない縁が廻る



蜂子神社



五重塔  
→

↑ 隨神門

さて、右手は上図の蜂子神社/左手は巖島神社



# 蜂はち子こ社しゃ

出羽三山開祖と仰ぐ蜂子皇子はちこのおうじを祀るお社まつである。

蜂子皇子は第三十二代崇峻天皇の皇子で推古元年

(西暦五九三年)海路北上し、庄内由良港に御上陸、

三本足の靈鳥れいとう(からす)の導くままに羽黒山に登り、

難行苦行の末、羽黒大神を拜し次いで月山、湯殿山

をお開きになられた。

皇子の御修行が羽黒修験道に発展、今日の出羽三山の礎を築くに至った。

毎年八月廿一日深夜には御例祭に併せ、秋の峰に入

峰した山伏達が社前の護摩壇で大柴燈祭を執行、

天下泰平国家安穩を祈願する。

皇子の御墓所は、宮内庁の所管で天宥社前を通り

正面にある。

右手奥が蜂子神社(鶴岡市指定文化財) / 左手前は巖島神社(鶴岡市指定文化財)



巖島神社/向拝の向って右側の柱には登り龍、左側の柱には降り龍、向拝木鼻には象と獅子、欄間には龍の精緻な彫刻



さて、正面が出羽神社(三神合祭殿)/江戸時代後期の再建/重要文化財



社殿は拝殿と本殿の間に合の間がなく、一体となった形式で、月山・羽黒山・湯殿山の三神が合祀されているところから、「合祭殿造り」ともいわれる羽黒派古修験道独自のものとなっている/主に杉材を使用し、内部は総朱塗りで、屋根は萱葺き



その屋根の萱葺きは厚さ2.1m(7尺)に及ぶ豪壮な建物



圧倒的な萱葺きの厚さ



左手から「湯殿山神社」、「月山神社」、「出羽神社」の神額が並ぶ











三神合祭殿内部/月山と湯殿山が冬季間豪雪の為、司祭や参拝が困難なことから出羽三山神社の社殿で合祭する形をとっている



これは出羽神社(三神合祭殿)の手前の鏡池



# 鏡池

この池は御手洗池みたらしのいけといひ古鏡が多数埋納されていたので鏡池ともいう。

今までに五百面以上の出土をみたが、現在、神社の博物館に百九十面が收藏されている。

これは平安から鎌倉時代に行われた池中納鏡の信仰によるものである。

殆どが青銅鏡で時代別にみると、平安九十一面・鎌倉五十六面・室町二面・江戸三面・時代不詳三十七面である。

出羽三山の信仰を物語る貴重な資料で、現在重要文化財に指定されている。

さて、これは天宥社



## 天 宥 社

羽黒山五十世執行、別当天宥法印を祀つたお社である。天宥法印は羽黒山中興の祖と仰がれ、今日お山繁栄の基を築かれました。

当時、お山は戦国争乱の影響を受け衰微し、各登拝口は独立の様相を呈し、威令行われざる時代に廿五才の若き身にて羽黒山別当の重職に就かれた天宥は当時黒衣の宰相と云われた上野寛永寺天海僧上に師事し宗教を匡し、壇那場、霞場の布教制度を確立し山の改革を図つた、又参道に石礎を敷き植林を奨励し田畑を興し、祓川の懸崖に瀧を落し、山内堂塔の造替移築を計る等お山の威厳を整え、又絵画、彫刻、造園の術にも非凡なる才能を発揮し御神威の発揚に挺身せられた。然るに晩年反对派の讒に遇ひ新島に流配の身となり在島七年八十二才で入寂された数奇な運命を辿つた人である。

歿后十五年元禄二年芭蕉奥の細道行脚の折り留杖、天宥法印の遺徳を偲び追悼文を寄せつれ、その末尾に「其玉や羽黒にかへす法の月」と詠まれている。天宥の偉大なる功績は多くの人々に敬慕され御霊社にまつられ慰霊祭が執り行われて来たが明治の御代になり神として祀られることになった。

この社殿は御開山四〇〇年の記念事業として造営され、平成四年秋竣功されたものである。

例祭日は十月廿四日(遷化の日)と定められ縁故の人々多数参列の下に齋行される。

これは鐘楼/元和4年(1618)の建立



これが建治元年(1275)鑄造の大鐘/重要文化財



前方は霊祭殿



れい さい でん  
霊 祭 殿

ほとけだてどう じぞうどう  
旧「佛立堂・地藏堂」

出羽三山は往古より先祖の御霊の鎮まり給う霊場のお山としても深い信仰をあつめており、羽黒山では三神合祭殿をお参りの後にここ霊祭殿で御先祖や所縁の御霊のご供養をする習わしがあります。

現在の社殿は昭和五十八年に改築されたもので、単層入母屋千鳥破風五間社造りの本殿に次ぐ壮麗な建物で、外拝殿の天井には横山大観の弟子熊澤観明画伯が畳二十一枚分の杉板に染筆した巨大な鎮魂絵「天女と神龍」が奉納されておられ、天女に導かれた御霊が龍（昇り龍・降り龍）に守護されて昇天することを願う意味があります。

Memorial Services for Ancestral Spirits

これが霊祭殿/昭和58年の再建







鐘樓の背後は参集殿/昭和63年建設



沢山の境内社が並ぶ/左から大雷神社、健角身神社、稲荷神社、大山祇神社、白山神社、思兼神社、八坂神社



これは出羽三山歴史博物館





# 出羽三山歴史博物館案内

出羽三山に關係深い文化財を展示しています。

記

- 一、重要文化財 銅鏡(羽黒山御手洗出土) 一九〇面
- 一、重要文化財 銅燈籠竿(文和元年在銘)
- 一、重要美術品 太刀(銘月山)
- 一、県指定文化財 鉄擬宝珠(文祿二年在銘 直江兼続寄進)
- 一、県指定文化財 銅狛犬(慶長十八年在銘 最上義光寄進)
- 一、県指定文化財 天宥追悼句(芭蕉筆)
- 一、県指定文化財 芭蕉手簡(因司左吉宛)
- 一、県指定文化財 木像阿弥陀如来立像
- 一、県指定文化財 木像毘沙門天立像 二軀
- 一、市指定文化財 後奈良天皇宸翰(和歌)
- 一、市指定文化財 尊圓法親王染筆(三十六人歌合)
- 一、市指定文化財 俊仁親王染筆(和歌)
- 一、市指定文化財 一品公猷法親王筆(額)
- 一、市指定文化財 承眞法親王染筆(書)
- 一、市指定文化財 直江山城守公祈願状
- 一、市指定文化財 羽黒山歴代別当手跡
- 一、市指定文化財 羽黒山頂出土・甕・経筒・経石・仏像・古銭等
- 一、市指定文化財 月山山頂出土・経石
- 一、市指定文化財 羽黒山総絵図(寛政三年作成)
- 一、中国古鏡 (川村コレクション) 三〇三面
- 一、仏 像 (佐藤コレクション) 二四三軀

その他指定文化財多数を收藏し、随時展示替えしています。

- 開館期間 四月下旬から十一月下旬
- 開館時間 午前八時三十分～午後四時三十分(受付四時まで)
- 休館日 木曜日 但し七月、八月無休
- 拝観料 大人 300円 高校大学生 200円 小中学生 無料

芭蕉翁像と三山句碑



さて、ここは月山八合目/霧で視界不良







朝日連峰  
国立公園

朝日連峰  
目合八山月

朝日連峰  
目合八山月

WELCOME TO

# ようこそ月山へ

GASSAN



月山は、湯殿山、羽黒山と共に磐梯朝日国立公園に指定されている、山岳地の自然公園です。

ここ弥陀ヶ原より上は、その景観の美しさと豊富な高山植物や、貴重な動物たちの生息地として山全体が国立公園特別保護地区と特別天然記念物に指定され、自然が守られています。

月山の魅力はなんと言っても生命の源「水」です。

大量に降る雪は、多いところで30mを越し、夏になっても雪が残る「万年雪」も見られます。

万年雪は登山者に涼しい風を運び、山に花々をいろいろ、庄内平野の田畑を潤し、あらゆる生き物達を生き生きと育ててくれます。

また、弥陀ヶ原湿原に点在する池塘は、その水の織りなす景観の中に「生きた化石」と言われるオゼコウホネ等の植物を豊かに育てています。

山頂ではクロユリ、岩陰にはオコジョ、尾根筋では悠々と空を舞うイヌワシも見られます。

太平洋から昇る日の出に一礼し、日本海に沈む夕日に手を振る。日々繰り返される自然の営み。いつまでもこの自然を守っていきましょう。

環境省・山形県

弥陀ヶ原へ木歩道を進んでみよう



しかし、視界不良につき、すぐに断念



さて、ここは湯殿山参拝バス乗り場



大鳥居が立っている



# 国立公園出羽三山 湯殿山案内図

羽黒山  
414m

月山  
1984m

湯殿山  
1504m



## 湯殿山神社本宮

- ① 玉姫姫御神社
- ② 御神社
- ③ 天神社
- ④ 美御神社
- ⑤ 常世久延戸姫神社
- ⑥ 大沢神社
- ⑦ 常盤神社
- ⑧ 高戸神社
- ⑨ 湯殿神社
- ⑩ 御沢神社
- ⑪ 明松神社
- ⑫ 伊弉冉神社
- ⑬ 宋名戸神社
- ⑭ 熊野神社
- ⑮ 飯野山神社
- ⑯ 福高神社
- ⑰ 丹生水上神社
- ⑱ 八千手神社
- ⑳ 湯殿神社

社人表より湯殿山神社本宮  
 輸入表より湯殿山神社本宮  
 湯殿山神社本宮より山頂上  
 湯殿山神社本宮より山頂上  
 湯殿山より月山八五目  
 月山八五目より山頂上  
 徒歩 30分  
 バス 5分  
 徒歩 30分  
 バス 30分  
 徒歩 30分  
 バス 30分

※一般の方は危険につき立入禁止

●現在地  
ここより先は参拝バスが  
徒歩にて登りまわす

湯殿山有料道路約2km 料金あり

湯殿山ホテル  
宿 食

六十里越街道

至月山 I.C

こんなものも



バスで湯殿山神社本宮入口へ向かう途中、本宮の鳥居が見えた



さて、ここが湯殿山神社本宮入口/これより中は撮影禁止となっている



# 湯殿山のご由来

御祭神

大山祇命 (おおやまづみのみこと)

大己貴命 (おおなむちのみこと)

少彦名命 (すくなひこなのみこと)

出羽三山とは、月山・羽黒山・湯殿山の総称で推古天皇元年(593)、第三十二代崇峻天皇の御子である蜂子皇子様  
の御開山である。皇子は、蘇我氏の難を避け、京都の由良か  
ら海路を経て、出羽国庄内浜の由良に入られた。そして三本  
足の霊鳥の導くままに羽黒山に入り難行苦行の末、羽黒山上  
に羽黒権現の御示現を拝し、次いで、月山、湯殿山を開き、  
両神を羽黒山に勧請して羽黒三所大権現と称した。

その後、皇子の御徳を慕い、加賀白山を開いた泰澄上人や  
修験道の祖と言われる役の行者、また真言宗の開祖弘法大師、  
天台宗の開祖伝教大師とその弟子慈覚大師なども来山して修  
行をしたとも伝えられている。こうして皇子修行の道は次第  
に発展して羽黒派修験道となり、全国に名を知られ時代を重  
ねるにつれ、人々の厚い信仰を集めることとなった。

此处、湯殿山は、推古十三年(605)の御開山とされ、  
出羽三山の総奥の院として特に厚い信仰を集めてきた。江戸  
時代までは真言宗として奉仕してきたが、明治維新に際して  
神仏分離(廃仏毀釈)が発令され、古への神奈備山にかえり  
神社として奉仕している。

殊に出羽三山信仰は「三関三度」(さんかんさんど)や、「擬  
死再生」(ぎしさいせい)など、生まれ変わりの信仰が今も尚息  
づいている。羽黒山で現世利益の御神徳に与り、月山の大神  
の下で死後の体験をし、慈悲深い湯殿の大神より、新しい生  
命を賜って、再生すると考えられる。

特に湯殿山での修行は三世を超えた大日如来を本地仏とす  
る大山祇命・大己貴命・少彦名命の霊験により、神仏と一体  
になり即身成仏を得ることが出来るとされた。また湯殿山本  
宮では、御神体を目の当りに拝し、直に触れてお詣りが出  
来る御霊験の有り難さより、俳聖松尾芭蕉も「語られぬ湯殿  
にぬらす袂かな」の句を残された、古来「語るなかれ」「聞  
くなかれ」と戒められた清浄神秘の霊場なのである。





こんなものも



## 参考ホームページ

<http://www.dewasanzan.jp/>

<http://www.dewatabi.com/syounai/dewa.html>

<http://www.mitene.or.jp/~hayamine/file2/dewa3zan.htm>

[http://www.geocities.jp/flow\\_and\\_stock/jisya-tohoku/ideha.html](http://www.geocities.jp/flow_and_stock/jisya-tohoku/ideha.html)

<http://kamnavi.jp/it/higasi/dewa3.htm>

<http://hirasan.canada2194.com/yamatameisyo2.html>

[http://blogs.yahoo.co.jp/jinjin\\_tsuka/5952307.html](http://blogs.yahoo.co.jp/jinjin_tsuka/5952307.html)

<http://kankodori.net/japaneseculture/treasure/020/>

<http://www.geocities.jp/ftjm599/06haguro.htm>

<http://www.asahi-net.or.jp/~kv3h-tdkr/kokuhou-jpeg/mokuroku-1/005.hagurosan.html>

<http://www.cwk.zaq.ne.jp/fkfc901/hagurosan.html>

<http://www.kakae.sakura.ne.jp/machinami/hagurosan/hagurosan.html>

<http://www010.upp.so-net.ne.jp/teiryu/Yg02.html>

